

令和元年度「山形学」講座 第4回目が終了しました！

今年度の「山形学」のテーマは「みやびとあそびの山形」。第4回目は「かなでる」と題して、公益社団法人山形交響楽協会理事長の園部稔氏と合唱団じゃがいも代表・常任指揮者の鈴木義孝氏を講師にお迎えし、「山形学」企画委員の菊地和博氏をコーディネーターに、開催しました。

園部氏は、47年の歴史をもつ山形交響楽団の誕生のきっかけやこれまでの活動、設立当初より力を入れているスクールコンサートについて映像を交えてお話くださいました。存続の危機に遭いながらも団員が一致団結し、組織改革を断行、その後は工夫を凝らして様々な活動を展開していること。例えば、演奏前にその曲が生まれた背景や意味を解説し理解を深める「プレトーク」の実施、全国初のモーツァルト時代の古楽器演奏、「さくらんぼコンサート」と称した東京、大阪での演奏会、「出羽三山シンフォニー」の実施ほか、「山響棚田米」への挑戦など、今や八面六臂の活躍をなさっています。またこれまでの活動が評価されクラシック音楽専門誌『音楽の友』で今年3月、山響は日本6位、世界45位と認められたことなどのお話をお聞きし、受講生は誇りと喜び、そして地元の宝を守り育てていく大切さを感じ取っていました。

園部氏は、「山響が山形を拠点に山形県の音楽文化を日本国内、世界に発信し、山形に人を呼びこみ、山形に人が住んでもらえるように、地域の発展に貢献したい。そのために、これからも様々な企画に挑戦し続ける」と熱く語っておられました。

鈴木氏は、全国に先駆けて合唱と劇を融合させた新スタイルの「合唱団じゃがいも」が生まれたきっかけや、合唱劇にこだわる理由、現在の活動などをユーモアを交えて語ってくださいました。公演の映像からは、団員一人一人が素人とは思えないほどの力強い表現力と生き生きとした表情で歌い動く迫力あふれる舞台が映し出され、受講生は引き込まれ、圧倒されていました。合唱団員の構成は家族ぐるみで幼児から高齢者まで年齢問わず。「基本は遊び。楽しいから、面白いから続いている」とその秘訣を語っておられました。独自の公演スタイルへの評価も高く、東京公演には有名な故高畑勲監督も必ず観に来てくれたそうです。

山形を拠点に活動する2団体。ジャンルは違えども、向上心を常にもち真摯に活動に打ち込む姿に受講生は勇気づけられ、県外からも観客を動員できる実力を備えた団体に成長したことに誇りを持つと同時に、恵まれた音楽環境にいることを再認識し、今後も応援し続ける使命を強く意識した回となりました。

2団体の活動を通して山形の音楽文化の理解を深めるとともに地域の振興・発展を考える大変有意義な講座となりました。

第4回「かなでる」

講師：園部 稔氏（公益社団法人山形交響楽協会理事長）

鈴木義孝氏（合唱団じゃがいも代表・常任指揮者）

コーディネーター：菊地和博氏（「山形学」企画委員）

場所：遊学館3階 第1研修室

日時：令和元年9月28日（土）13：30～16：00

参加者：60名



☆令和元年度「山形学」フォーラム及び講座は、全講座終了後に内容をまとめ、講座録“遊学館ボックス”として発刊いたします。これまでの講座も冊子にしており、販売しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。